

静岡県水産試験場富士養鱒場 〒418 - 0108 富士宮市猪之頭 579 - 2

TEL: (0544)52 - 0311 FAX: (0544)52-0312

E-mail: suishi-masu@pref.shizuoka.lg.jp

URL: <http://www6.shizuokanet.ne.jp/fujimasu/>

平成 18 年サケ科魚類の生産状況と魚病発生状況について

平成 18 年の静岡県におけるサケ科魚類の生産状況と魚病発生状況がまとまりましたのでお知らせします。

量の推移を第 2 表に、生産額の推移を第 3 表に示しました。また、生産単価の推移については第 4 表に示しました。生産量はニジマスとギンザケで減少しましたが、アマ

1 調査状況

県内でサケ科魚類を養殖している経営体にアンケート票を配布し、魚種毎に生産量と生産額を、また魚病発生状況については疾病毎に被害量と被害額を調査しました。

なお、調査期間は平成 18 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間としました。魚種毎の回答状況を第 1 表に示しました。

第1表 調査状況

魚種	経営体数	回収数	回収率(%)
ニジマス	25	23	92
ギンザケ	4	4	100
アマゴ	27	24	89
イワナ	12	12	100

各魚種において、ほぼ 100% 調査することができましたので、今回の調査でサケ科魚類の生産状況と魚病発生状況は把握できたのではないかと思います。なお経営体数では平成 17 年に比べアマゴの生産業者数が 12 軒減少しました。

2 生産状況

平成 9 年および 14 年から 18 年までのニジマス、ギンザケ、アマゴ、イワナの生産

第2表 静岡県内のサケ科魚類の生産量 (t)

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ等	合計
H9	2,564	46	74	97	2,781
H14	1,965	73	57	96	2,191
H15	1,971	82	53	85	2,191
H16	1,939	82	43	121	2,185
H17	1,932	68	41	88	2,129
H18	1,757	66	72	110	2,005

第3表 静岡県内のサケ科魚類の生産金額 (百万円)

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ等	合計
H14	796	40	93	78	1,007
H15	837	52	90	66	1,045
H16	848	48	68	82	1,046
H17	806	45	58	62	971
H18	780	43	102	86	1,011

第4表 静岡県内のサケ科魚類の販売単価 (円/kg)

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ等
H14	405	548	1,632	813
H15	425	634	1,698	776
H16	437	585	1,581	678
H17	417	662	1,415	705
H18	444	657	1,413	780

ゴとイワナの生産量は増加しました。

ニジマス

生産量は 1,757 トンで、17 年より 175 トン減少し、平成 15 年より減少が続いています。生産額も 7 億 8,000 万円と平成 17 年の 8 億 600 万円より減少しています

が、単価は 444 円/kg と平成 14 年以降では最も高くなりました。

ギンザケ

平成 18 年の生産量、生産額、生産単価はそれぞれ 66 トン、4,300 万円、657 円/kg で、前年とほぼ同程度でした。

アマゴ・イワナ

平成 18 年のアマゴ生産量、生産額、生産単価は 72 トン、1 億 200 万円、1,413 円/kg でした。平成 17 年と比較して生産量、生産額が増加しましたが、単価はほぼ同程度でした。イワナは生産量および生産額が平成 17 年と比較して増加しそれぞれ 110 トン、8,600 万円でした。単価は 780 円/kg であり同様に上昇が見られました。

3 魚病被害状況

平成 9 年および 14 年から 18 年までのニジマス、ギンザケ、アマゴ、イワナの魚病被害量の推移を第 5 表に、魚病被害額の推移を第 6 表に示しました。また、17、18 年の疾病別被害状況について第 7 表に示しました。

被害量は平成 17 年と比較して 18 年はニジマスとイワナで減少しましたが、アマゴでは増加しました。被害額も同様の傾向を示しました。

第5表 静岡県内のサケ科魚類の魚病被害量

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ等
H9	191,459 7.5	7,500 16.3	4,034 5.5	2,865 2.9
H14	169,356 8.6	4,514 6.1	4,644 8.1	11,000 11.5
H15	230,524 11.7	6,800 8.3	5,905 11.1	11,000 13.1
H16	171,446 8.8	5,200 6.3	3,297 7.7	6,010 5.0
H17	219,300 11.4	6,000 8.8	620 1.5	11,000 12.5
H18	143,857 8.2	6,000 9.1	3,350 4.7	4,950 4.5

上段：魚病被害量 (kg)

下段：被害量の生産量に対する割合 (%)

ニジマス

魚病被害量および被害額はそれぞれ 144 トン、8,400 万円でした。対生産量、生産額比はそれぞれ 8.2%、10.8% でした。被害量は過去 5 年で最も少なく、被害の多かった平成 17 年と比較すると 75 トン減少し、対生産量も 10% を下回りました。被害額でも 3,900 万円、32% 減少しました。

疾病別被害状況をみると、被害量では細菌性鰓病の被害が最も多く 36 トンとなりました。ミズカビ病の被害が増加し 26 トン、IHN は 16 トンの被害が見られました。平成 17 年に被害の多かったレンサ球菌症およびピブリオ病は減少し、それぞれ 19 トン、1 トンでした。

被害額では IHN が最も多く、2,300 万円でした。ついで細菌性鰓病の 2,000 万円、ミズカビ病の 930 万円となりました。

ギンザケ

ギンザケでは平成 17 年同様、EIBS が 6 トンの被害で最も多く、他の疾病としてはイクチオホヌス症、ミズカビ病が見られました。

アマゴ

第6表 サケ科魚類の魚病被害金額

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ等
H9	207,951 15.2	15,300 28.5	9,280 7.2	5,198 5.6
H14	116,186 14.6	6,407 15.9	8,176 8.9	15,880 20.3
H15	140,990 16.8	18,800 36.4	9,059 10.0	11,090 16.9
H16	113,428 13.4	6,500 13.4	6,124 9.0	5,408 6.6
H17	123,010 15.3	7,240 15.9	1,503 2.6	10,200 16.5
H18	84,110 10.8	7,240 16.8	4,600 4.5	4,100 4.8

上段：魚病被害金額 (千円)

下段：被害金額に対する割合 (%)

アマゴの被害量は 3.4 トン (4.7%)、被害額は 460 万円 (4.5%) でした。疾病別被害状況はせっそう病の被害が最も多く 2.1 トン、次いでミズカビ病の 1.2 トンとなりこの 2 疾病で全体の 97% を占めました。

イワナ

イワナの被害量は 5 トン、被害金額は 410 万円でした。疾病別ではせっそう病が 3 トン、ミズカビ病が 1.5 トン、イクチオホヌス症が 450kg でした。

(望月万美子)

第7表 サケ科魚類の疾病別被害状況

魚種	病名	被害量 (kg)		被害額 (千円)	
		H17	H18	H17	H18
ニジマス	IHN	23,750	16,350	23,300	23,400
	OMVD		4,500		4,500
	ビブリオ病	27,200	1,000	14,810	400
	冷水病	2,240	2,240	5,500	3,410
	レンサ球菌症	89,000	18,500	36,400	7,800
	細菌性鰓病	11,450	36,368	7,100	19,847
	イクチオホヌス症	23,000	15,750	9,000	6,800
	ミズカビ病	12,000	26,000	4,300	8,450
	不明	27,500	23,149	11,600	9,303
	合計	219,300	143,857	123,010	84,110
ギンザケ	EIBS	5,500	5,500	7,000	7,000
	イクチオホヌス症	300	300	120	120
	ミズカビ病	200	200	120	120
	合計	6,000	6,000	7,240	7,240
アマゴ	IHN		100		200
	せっそう病		2,050		3,100
	冷水病	250		500	
	白点病	115		453	
	ミズカビ病		1,200		1,300
	不明	250		540	
	合計	615	3,350	1,503	4,600
その他のワナ	せっそう病	6,000	3,000	5,700	1,700
	冷水病	1,000		600	
	細菌性鰓病	3,000		2,400	
	ミズカビ病		1,500	8	1,200
	イクチオホヌス症		450	1,500	1,200
	不明	1,000			
	合計	11,000	4,950	10,208	4,100

舞田先生の講演会が開催されました ～ 飼育環境と疾病対策～



去る 3 月 9 日富士養鱒漁業協同組合会議室において、講習会が開催されました。

これは県の普及事業「意欲ある漁業者による自主的活動の支援事業」のメニューにおいて実施される講習会ですが、平成 19 年度は東京海洋大学舞田正志助教授を招いて「飼育環境と疾病対策」について講演し

ていただきました。飼育環境が疾病におよぼす影響ということで、飼育密度と疾病による死亡率の関係や、溶存酸素量や血液性状と疾病の発生状況との関係など、様々なデータを示していただきました。質疑では業者の皆様からも多くの発言が出て、盛況な会議となりました。養殖現場で働く皆さんにとって身近で興味深い情報が得られたのではないかと感じられました。わかっているにもかかわらず難しい・・・ということが多々あるとは思いますが、作業を行う時など思い出していただければ幸いです。

詳しい内容や、講演内容についての質問等は水産技術研究所富士養鱒場で承りますので、興味がありましたら是非ご連絡ください。
(望月万美子)

漁業士会総会が行われました



平成 19 年 2 月 9 日(金)焼津市の焼津グランドホテルにおいて平成 19 年度静岡県漁業士会総会が行われ、県内各地で様々な漁業に従事する漁業士が集まり、養鱒業界からも 2 名の漁業士が参加しました。

総会では収支活動報告の後、業種ごとに分かれて意見交換や討論を行う分科会が行われ、養殖部門には養鱒業に従事する漁業士のほか、アユ養殖に従事する漁業士が参加しました。

分科会では養殖業の現状や、アユとニジマスの出荷方法におけるメリット、デメリットが出されました。また、今後のあり方として養殖方法の改善、未利用サイズの利用、消費者へ調理方法などを広報する必要性、インターネット等を活用した市場以外の流通ルートを開拓するといった意見が出され、活発な意見交換が行われました。

(岡田裕史)

平成 19 年度人事異動

《転出》	主任研究員 主 任	川合 範明 桑原 直樹	水産振興室 税務室課税スタッフ	
《転入》	主 任 主 事	鈴木 基生 鈴木 祥司	水産試験場沼津分室 副主任 県議会事務局調査課 主 事	

新任のあいさつ



この 4 月に人事異動により、水産試験場漁業開発部沼津分室より転入しました鈴木基生です。私は平成 3 年から 7 年まで富士養鱒場に勤務していました。

その後、浜名湖分場でウナギ、アユ養殖を、沼津では海面養殖を担当していましたので、ずっと養殖業に関する仕事をしています。普及指導員として、海面養殖業及び養鱒業を中心に活動していきたいと思っておりますので、よろしく願います。
(鈴木基生)

富士養鱒場の湧水と気象

月	天候（午前 9 時、日数）				降水量（mm） カッコは降水日数		湧水量（万トン/日）	
	快晴	晴れ	曇り	雨	18/19 年	20 年平均	18/19 年	20 年平均
10 月	2	11	12	6	145(12)	241(9)	5.29	8.47
11 月	1	13	12	4	111(11)	162(6)	3.88	6.32
12 月	1	13	14	2	91(7)	58(5)	3.24	5.19
1 月	5	16	8	2	55(6)	76(6)	2.64	3.69
2 月	3	13	8	4	119(7)	90(6)	2.51	3.12
3 月	3	14	6	6	238(7)	197(9)	2.30	3.13

日 誌

平成 18 年

- | | | | |
|-------|-----------------------------------|-------|----------------------------|
| 10月2日 | イワナサンプリング(静岡市) | 14日 | 東北北陸内水面合同検討会(富山市) |
| 3日 | 業務連絡・分場長会議(本場) | | アユ ALC 標識(裾野市) |
| 11日 | 袋井農業用水調査(袋井市) | 18日 | 天竜川アユシンポジウム(浜松市) |
| | 関東東海ブロック指導員研修
(浜松市, ~ 12日) | 22日 | 内漁連組合長会議(焼津市) |
| 12日 | 青年漁業士連絡会(県庁) | | 水産研究発表会(本場) |
| 17日 | 富士宮市富士見小3年96人見学
市民中央公民館講座20人視察 | 24日 | アユ流下仔魚調査(沼津市) |
| 18日 | 世田谷区弦巻中138人見学 | 27日 | 養鱒協運営委員会(東京) |
| 19日 | 森町健康福祉課県民バス30人視察
富士宮市大富士中49人見学 | 12月1日 | 業務連絡・分場長会議(本場) |
| 20日 | 森林環境フェア(静岡市) | 4日 | 普及指導員資格試験(東京) |
| 26日 | 内水面研究推進会議(上田市, ~ 27日) | 6日 | 予備監査(静岡市) |
| 28日 | イワナ資源生態調査
(静岡市井川, ~ 31日) | 12日 | 研報編集委員会(本場) |
| 11月2日 | 業務連絡・分場長会議(本場) | 14日 | 内水面研究推進会議
(宇都宮市, ~ 15日) |
| 7日 | タウンミーティング(沼津市) | 15日 | 魚病対策技術部会(本場) |
| 8日 | 技術連絡協議会(本場) | 19日 | 水産業動向検討会(静岡市) |
| | | 21日 | アユ仔魚調査(沼津市) |
| | | 22日 | 青年漁業士連絡会(県庁) |
| | | 28日 | 仕事納め |

平成 19 年

- | | | | |
|------|---------------------|------|--------------------|
| 1月4日 | 仕事始め | 16日 | 富士宮市大富士小3年177人見学 |
| 5日 | 業務連絡・分場長会議(本場) | 17日 | アユ仔魚調査(沼津市) |
| 9日 | 芝川水質調査(芝川町) | 21日 | 技能五輪視察見学 |
| 10日 | 本監査(本場) | 22日 | 研究課題ヒアリング(本場) |
| 11日 | アユ仔魚調査(沼津市) | 26日 | 魚病対策技術部会(静岡市) |
| 17日 | 魚病技術部会 KHV 特別研究(東京) | 27日 | 島田土花の会35人視察見学 |
| 19日 | 青年女性漁業者交流大会(静岡市) | 28日 | 普及指導員一般研修(本場) |
| 23日 | 富士宮市黒田小3年124人見学 | 3月2日 | 業務連絡・分場長会議(本場) |
| 24日 | アユ試験研究打合せ(本場) | 5日 | アユ資源研究部会幹事会(東京) |
| 30日 | 富士宮市根南小190人見学 | 6日 | アユ資源研究部会(東京, ~ 7日) |
| 31日 | 水産加工技術セミナー(本場) | 8日 | アユ冷水病対策会議(東京) |
| 2月1日 | 研報編集委員会(本場) | 9日 | 舞田先生研修会(富士宮市) |
| 2日 | 業務連絡・分場長会議(本場) | 12日 | 養鱒協運営委員会(東京) |
| 3日 | アユ仔魚調査(沼津市) | 14日 | 水産振興協議会(静岡市) |
| 8日 | ハイドロバレー報告会 | 15日 | 生産業務関係機関運営連絡会 |
| 9日 | 漁業士総会(焼津市) | 26日 | アユ冷水病対策部会(静岡市) |
| 13日 | 富士宮市貴船小3年103人見学 | | 魚病対策委員会(静岡市) |
| 14日 | 富士宮市富士根北小3年42人見学 | 27日 | 知的財産シンポジウム(東京) |
| 15日 | 養鱒研究会(富士宮市) | | |

